

(二) 休日の余暇時間の過ごし方

① 友だち離れの傾向

表7-1 17-4から、次のような青少年の姿が浮んできます。

小学生のある者は、公園や広場で、家族や近所の友だちとスポーツを楽しんだり、遊んだりしています。しかし、ほとんどは、家の中で、同級生とテレビを相手にしたり、マンガを読んだりして、気分を粉らわしながらなんとなく過ごしています。

また、中高生のほとんどは、外で過ごすことを嫌い、一人で、時には級友と、自宅に帰るとすぐ習慣化されたテレビ、ラジオ、ステレオにスイッチを入れ、なんとなく目と耳を傾けて過ごしています。

表7-3 どんな友だちとすごすか

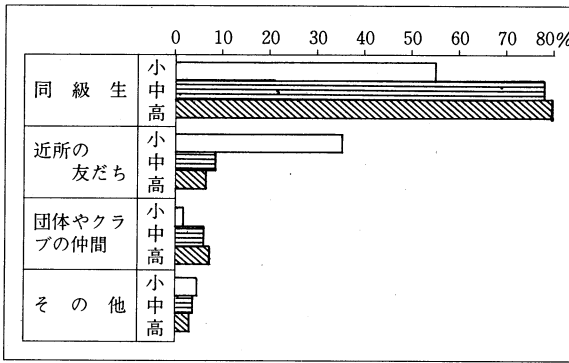
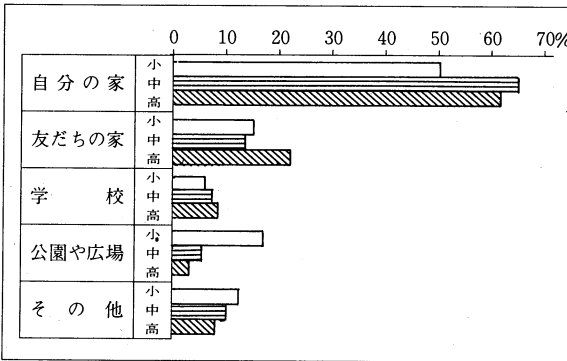


表7-4 どんな場所ですごすか



ます。

このような、友だちと接触することの少ない、余暇時間の過ごし方の傾向が続くと、ますます、人間関係が乏しくなり、友人とうまく遊べない、友だちを好き嫌いで判断し、嫌いな人との接し方を知らないなど、対人訓練のできていない、人とスムーズにつき合うことの苦手な「対人困難症」の青少年が増えてまいります。

その結果、友だちとうまく関係が保てないことがきっかけで、問題が発生してきます。

そのことが、表8のすくすくダイヤルの相談傾向にもあらわれてきています。

今の青少年は、甘えが強くて、依存

表8 すくすくダイヤル相談傾向

各時期における相談内容の傾向 (60.4~60.12)						
時期	順位	1位	2位	3位	4位	5位
乳幼児期		育児保育	健康発育	しつけ	性格行動	知能・ば育
小学生期		性格行動	対人交遊	しつけ	登校拒否	健康発育
中学生期		対人交遊	健康発育	しつけ	いじめ	学業成績
高校生期		登校拒否	進路適応	性格行動	対人交遊	非行
[全体]		育児保育	対人交遊	しつけ 健康発育	登校拒否	

相談内容をおおまかに分類して、学校種別(時期別)に多い順に1位から5位まで示すと表8のようになります。

中学生期に「いじめ」が4位に入り、高校生期では登校拒否が1位となっており深刻な相談が多くなってきています。

的で、自我の主体性に欠け、自立して他人と接する訓練ができていない「幼児化」の傾向にあるといわれています。このようなことを改め、人間関係を豊かにするには、生身の相手との遊びや社会参加を通して、育てることが大切です。

② 仲間との遊び

ここでは、人間関係形成の礎となる遊びについてふれることにします。

現在の子どもの遊びは、群れ型から孤立型へ、広場や空地から施設や家の中へ、伝承的な手づくり遊びから既成の規格化された遊びへと変化し、季節性がなくなり、通年性の遊びとなってきました。

- 群れ型遊びの特色は、
- ア、体を動かすので体力がつく。
- イ、友だちと遊ぶので社会性が育つ。
- ウ、木に登ったり、川に入ったりのので、手や足などの器用さが増す。
- エ、かくれ方や逃げ方を工夫するので創造性が育つ。
- オ、一生懸命に追いかけてたり、逃げたりするのでやる気が増す。
- カ、気分がすっきりするので精神的に安定する。

であるが、このようなことがなくなつたため、野性を失い、ひ弱になり、ストレスがたまってきます。特に、身体と言葉のストレスがたまり、その解消に、同級生、同学年の友を手と足と口で「いじめ」しているともいわれてい